

Sanrin ISSN 0487 - 2150
 創刊 明治 15 年 (1882 年) 1 月
 昭和 4 年 2 月 9 日第三種郵便物認可
 (毎月 1 回 5 日発行)
 平成 25 年 1 月 5 日発行
<http://www.sanrinkai.or.jp/>

山林

No. 1544 大日本山林会 2013



『山林』表紙

温故知新による吉野林業の再生

おか 橋 清 元

はじめに

五〇〇年の歴史の中で繁栄して来た吉野林業、しかし世界的な経済の疲弊、また人々の価値観の変化等、優良高級材を長年生産して来た吉野林業にもその影が重くのしかかって来ている。昭和五十八年をピークに原木価格が徐々に下り始め、平成十年、近畿地方を襲った台風七号の被害を境に、急激に原木価格が下落し現在の水準に至っている。一向に上昇の兆しは見えていない。江戸時代中期から吉野林業の基礎を築いた山守制度や間伐・育林技術も次第に時代の変化に対応しきれず、このままでは伝統文化や技術が消滅してしまう。まさ

に吉野林業の危機でもある。

私は昭和四十九年、岐阜県の石原林材㈱の研修を終え吉野へ戻り路網の大切さを痛感し、吉野でも、と無謀にも路網に挑戦し大崩壊を起こした苦い経験がある。今から三三年前の事だった。あの時、大阪府の指導林家の大橋慶三郎先生(第三三回農林水産祭天皇杯受賞者)に巡り会わなかったら今の私は無かったかもしれない。大橋先生が五〇年間試行錯誤された大橋式路網、この技術が無ければ吉野の急傾斜地で地形・地質の不安定な所に高密度路網は不可能だったに違いない。林野庁の森林・林業再生プランの中で、奈良県が行っている木材生産推進事業の要件として大橋式路網が義務づけられ、

『山林』誌掲載「私の林業経営」